

氏名	大 家 政 志
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3610号
学位授与の日付	平成13年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Plasma Fibronectin in Asthmatic Patients and its Relation to Asthma Attack (気管支喘息発作におけるFibronectinの動態)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 横野 博史 教授 西堀 正洋

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

FNは多様な生物学的活性を持つ糖蛋白で、呼吸器疾患に関しては間質性肺炎の肺局所での産生増加と肺線維化との密接な関係が報告されている。今回、筆者らは気管支喘息患者 95 例、健康人対照 60 例について血漿FN及び血清ECPを測定し、発作との関連で検討した。気管支喘息患者の非発作時血漿FNは 430 $\mu\text{g/ml}$ であり、健康人対照 385 $\mu\text{g/ml}$ に比べ有意($p < 0.025$)に高値であり、またアトピー群に比べ非アトピー群が有意($p < 0.05$)に高値であった。また発作回数の多い群で有意($p < 0.05$)に高値であった。発作時と非発作時の検討では発作時 375 $\mu\text{g/ml}$ に比べ非発作時 430 $\mu\text{g/ml}$ と有意($p < 0.025$)に高値であった。血清ECPの検討では非発作時 17.7 $\mu\text{g/l}$ であり、発作時 25.5 $\mu\text{g/l}$ に比べ有意($p < 0.005$)に低値であった。また、発作時、非発作時の血漿FNの変動率と血清ECPの変動率には $r = 0.78$ ($p < 0.05$)と強い正の相関がみられた。以上よりFNは喘息発作において強い関与があると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、多様な生物学的活性を持つ糖蛋白の Fibronectin (FN) について、臨床的に間質性肺炎の病態における意義を検討したものである。その結果、気管支喘息患者の非発作時血漿 FN は 430 $\mu\text{g/ml}$ であり、健康人対照 385 $\mu\text{g/ml}$ に比べ有意 ($p < 0.025$) に高値であり、またアトピー群に比べ非アトピー群が有意 ($p < 0.05$) に高値であったなど、興味ある知見を得ている。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。